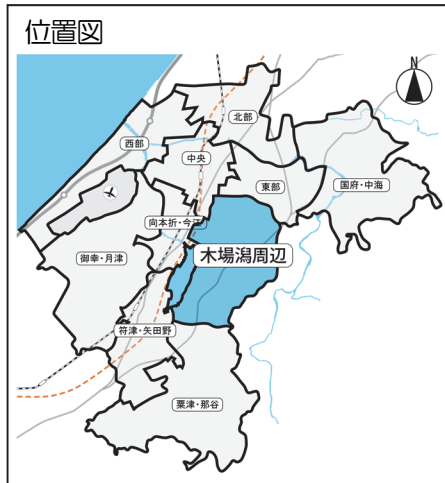


7 木場潟周辺地域（苗代・蓮代寺・木場）

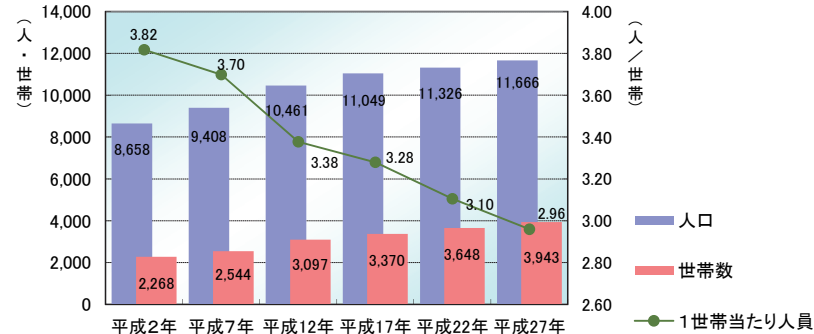
1. 地域の現況

- ・本地域は苗代、蓮代寺、木場の3校下からなり、木場潟の東部に位置し、東部丘陵地と木場潟沿いの平野部からなっている。
- ・地域のほぼ中央を南北に国道8号（小松バイパス）が通過しており、東西方向には国道416号、（主）金沢小松線が横断し、市街地と連絡している。
- ・吉竹北部や千木野団地等の整備により、近年、人口が急増している。
- ・地域内の約9割は市街化調整区域となっており、市街化区域は住居系用途が大部分を占め、わずかに商業系と工業系が存する。
- ・平成27年現在の人口は11,666人となっており、苗代校下の増加は著しく、蓮代寺、木場校下は横ばいであるが、全体では増加傾向にある。また、世帯数についても3,943世帯で増加傾向である。
- ・平成27年の高齢化率は23.8%となっている。



●基礎データ		都市計画区域内に占める割合	都市計画区域内の平均	備考
面積（ha）	1,503	12.3%		都市計画基礎調査値
人口（人）	11,666	11.4%		H27国勢調査値
世帯数（世帯）	3,943	10.8%		〃
人口密度（人/ha）	7.76		11.10	
平均世帯員数（人/世帯）	2.96		2.79	
高齢化率（%）	20.1【9.7】		23.0【11.0】	H22国勢調査値
【 】は75歳以上の割合（%）	23.8【10.5】		27.0【12.4】	H27国勢調査値

●人口・世帯数の推移

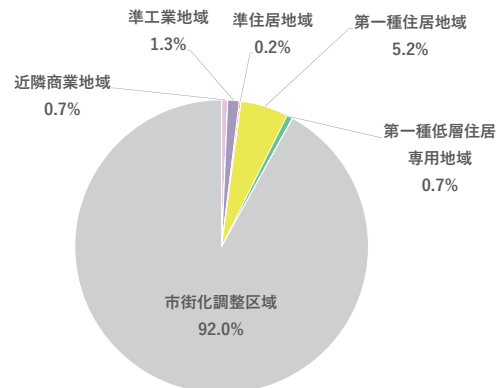


◆小松市高齢化率
H22：23.6%【11.5%】
H27：27.6%【12.9%】
【 】は75歳以上の割合

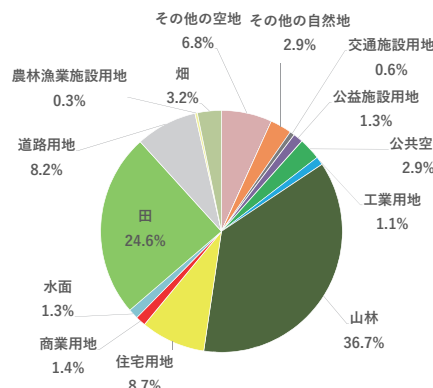
◆伸び率（H17→H27）
人口：5.6%
世帯数：17.0%

出典：国勢調査

●区域区分・用途地域

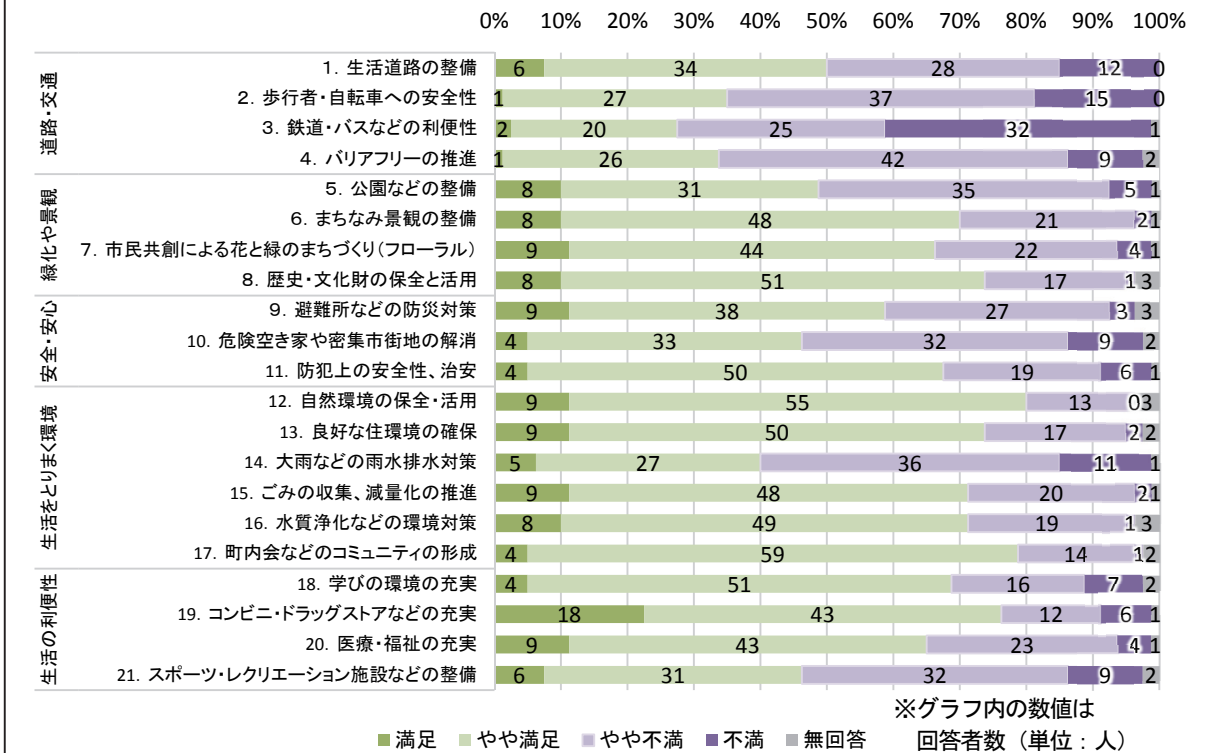


●土地利用現況



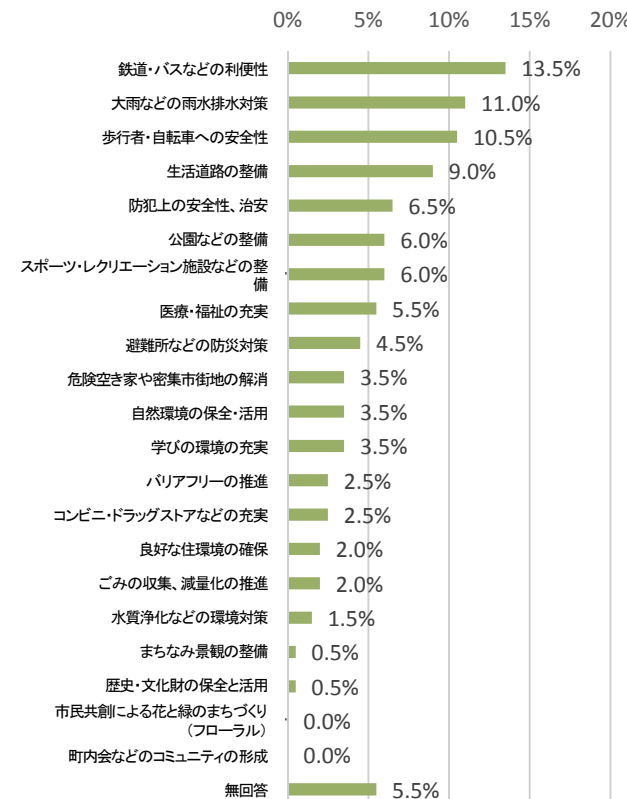
2. 住民意向調査結果（回答者数：80人）

●生活環境の満足度



※グラフ内の数値は
回答者数（単位：人）

●さらに住みよくなるために重要なこと



●具体的なまちづくりの方策について

- ◇道路交通網の整備について重要だと思うこと
▶ [身近な生活道路の整備](#)
- ◇公園・広場の整備について重要だと思うこと
▶ [身近な公園や広場の整備](#)
- ◇まちなみ景観について重要だと思うこと
▶ [無電柱化による景観の整備](#)
▶ [白山眺望などの景観保全](#)
- ◇防災対策について重要だと思うこと
▶ [避難場所や備蓄倉庫などの充実](#)
- ◇環境対策について重要だと思うこと
▶ [豊かな緑や自然の保全](#)
- ◇市街地の整備について重要だと思うこと
▶ [やさしく安全な歩行空間の整備](#)
- ◇小松駅周辺の整備や取組について重要だと思うこと
▶ [駅周辺のにぎわいづくり](#)
- ◇まちづくりにおける市民の役割について
▶ [自分の住んでいるまちや地域に関心を持つこと](#)

3. 地域のまちづくりの方針

〔まちづくりの目標〕

木場潟や東部丘陵の自然環境と共生するやすらぎのある生活を実感できるまち

本地域は、木場潟や東部丘陵、田園の緑等の豊かな自然に恵まれ、国道8号小松バイパスにより広域交通の利便性が高く、また、（都）幸八幡線、（都）空港東山線により中心市街地へのアクセス性が確保されており、生活利便性の高い地域である。

優良農地の保全と無秩序な開発を抑制するとともに、開発にあたっては、周辺環境に配慮した計画的な整備を図り、開発と保全の調和のとれた土地利用を誘導する。

また、既存集落地において、下水道や公園、生活道路等の整備による居住環境の向上を図るとともに、新興住宅地においては今後とも良好な居住環境の維持・保全に努める。

さらに、地域を取り巻く東部丘陵や木場潟、農地などの自然環境の保全と、白山眺望景観や田園風景等の魅力ある景観づくりを推進し、うるおいある豊かな環境形成を図る。



〔課題と主な整備方針〕

1

広域交通機能の充実と活用

- ・バスやタクシーなどの二次交通網を充実し、南加賀ターミナル駅（JR小松駅）やJR栗津駅とのアクセスの向上を図る。

3

こまつの魅力・活力を高める土地利用や都市基盤の整備

- ・沖周辺地区では広域商業機能の立地促進、住宅地の整備を図るとともに、既成市街地との連携による市全体の活力増進と賑わいの創出を目指す。
- ・（都）幸八幡線の延伸区間の整備を促進する。

5

自然環境との共生、地域特性を活かした景観の創出

- ・白山眺望景観保全地域では建築物等の高さや色彩等の規制・誘導し、眺望景観を保全する。
- ・有害鳥獣等への対策を図るとともに、東部丘陵地の緑豊かな景観や自然環境の保全と共生を図る。
- ・木場潟周辺集落の生活排水の浄化を推進し、効率的・効果的な污水处理を検討しながら整備を進める。

7

多分野へのICT化の促進

- ・ICTを活用したバス運行情報システムの導入等により利便性・快適性を向上し、スマートな交通を実現する。
- ・公衆無線LANサービスの維持、向上により、観光等での情報収集・発信しやすい環境を整備する。

2

暮らしや長寿社会への対応

- ・既存集落周辺では開発の緩和により一定割合の宅地化を推進し、コミュニティを維持・活性化する。
- ・空き家・空き地の活用により、まちなかに暮らしやすい環境を緩やかに誘導する。
- ・バスの利用の促進を図るとともに、集落等と小松駅や栗津駅等を結ぶ公共交通のネットワークを形成する。

4

定住と交流の増大

- ・千木野団地や吉竹北部地区等の新たに整備された住宅地では、将来にわたって良好な居住環境の維持・保全を図る。
- ・木場潟公園東園地では、利用拡大と地域活性化の取組として、里山の魅力を活かした公園整備を推進する。

6

災害に強い安全な都市空間の形成

- ・調整池設置による流出低減や増補管の整備による雨水排水機能の向上等、総合治水対策を推進する。
- ・災害時の避難・救援拠点として道の駅こまつ木場潟や第1次緊急輸送道路である国道8号の機能を強化する。

8

オールこまつの『共創』の意識

- ・公立小松大学、こまつ市民大学等との連携により、地域を担う人材の育成を促進する。
- ・ヨシ原再生、木場潟クリーン作戦など、市民と協働で取り組んでいる活動の継続による水質浄化や環境美化を推進する。

7. 木場潟周辺地域の整備方針図（苗代、蓮代寺、木場）

木場潟や東部丘陵の自然環境と共生する
やすらぎのある生活を実感できるまち

沖周辺地区

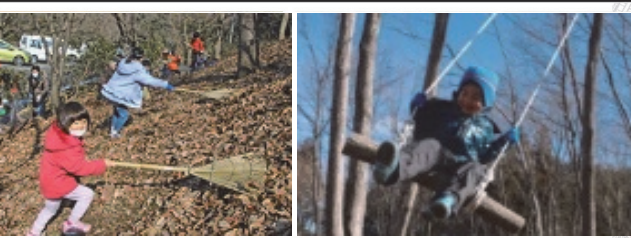
3 広域商業機能の立地促進、住宅地の整備を図るとともに、既存市街地との連携により市全体の活力増進と賑わい創出を目指す。

木場潟周辺

4 カヌー競技専用コースを再整備するとともに、木場潟公園の一層の利用促進に向け、健康増進や自然を活かした教育の場として施設の整備充実、運営を促進する。



4 木場潟公園東園地では、利用拡大と地域活性化の取組として里山の魅力を活かした公園整備を推進する。



5 木場潟周辺集落の生活排水の浄化を推進しており、効率的・効果的な污水处理を検討しながら整備を目指す。

6 避難・救援拠点として道の駅こまつ木場潟や第1次緊急輸送道路である国道8号（小松バイパス）の機能強化を図る。

8 市民や企業の参画を得て、木場潟の周囲に整備した桜回廊を守り育てる。



既存集落・東部丘陵地周辺

2 人口停滞などにより社会的活力の維持が困難になっている地区では、優良農地との整合に十分配慮し、既存集落周辺において諸制度の適切な運用により、一定割合の宅地化を進める。

5 白山眺望景観保全地域において、建築物等の高さや色彩等を規制・誘導し、眺望景観を保全する。



5 有害鳥獣を資源とするジビエ等を通じて都市住民等が関わる機会を得ながら、東部丘陵地の緑豊かな景観や自然環境の保全と共生を図る。

地域整備の方針

- | | |
|---|--|
| 【住居系】 <ul style="list-style-type: none">職住近接型住宅ゾーン低層住宅ゾーン既成市街地住宅ゾーン居住誘導区域市街地近郊宅地化区域既存町内区域（地域コミュニティ維持・活性化） | 【産業系】 <ul style="list-style-type: none">商業業務地ゾーン沿道サービスゾーン工業専用ゾーン都市機能誘導区域 |
| 【農業・自然系】 <ul style="list-style-type: none">田園（農村集落）ゾーン森林ゾーン | 【その他】 <ul style="list-style-type: none">医療・健康増進・温泉・観光ゾーン新規土地活用ゾーン |
| 【道 路】 <ul style="list-style-type: none">主要幹線道路幹線道路その他の道路 | 【避難場所】 <ul style="list-style-type: none">避難・救援拠点指定避難所機能強化指定避難所 |
| 【区分境界】 <ul style="list-style-type: none">地域区分境界 | <ul style="list-style-type: none">市街化区域界 |

※番号は課題に対応